



官刻
孝義錄

卷廿九

越後下
佐渡

9
1596
29



門 9
號 1556
卷 29



孝義録卷之二十九

越後國下

家内睦者長玄清

家内睦者市郎玄清

長玄清市郎玄清親子ハ蒲原郡並本村乃百姓あり
十四石四斗ありの田高と持しか家のうち一人あ
りてはむしハあそむる人作といふ事ともるせり願
主ハ控をまんとし奉賞とてくめ公役限ふとの
おひめりて奉正との貢ハ領主の膳料といひたり
ハく春ハ種をとり秋乃りりい道あまの事

らばこそしもまの地を春をひらふ事いづ
 せこそいさほしかりおといひつて暗しく應對に
 ること奉れ始とのつ子ありと道橋ふとの後造或る
 廻状の持をくりすと我ふらものうらふり出るに
 ハ長玄清いさうらうらうらふことさうも其のつて免
 ふくいとまじこと事にいあや海ちもあらもの
 さいしと悪の清用とんぬく大切よつらむしと
 いづつとくり出しく世にらるる後ハ長玄清
 夫婦ハふあうらぬさゆふといつてもいづと推しうり
 今やとそくと福もあやうらうらうら乃そらもより

清用の事つらうく執りてりおといひて父母とら
 ことし先ゆらに市原玄清夫婦亦も海らも走り
 じく見と亦のうらうらうれ随月のしとあうら
 乃むもとら事海くもそのもさうとつてめと福ん
 こ海はせきたとけさるあつて市原玄清を始先見
 亦ともい他お出く海らとらハ敬題といおより秋
 うらうらといひあうり是ハ必末の亦れ門道に出じ
 へぬ世とそのうらう声さうつげ事あくと父
 母のもとら若し先んた先あり今ありあう市原
 玄清の妻もその家風をうけり朝夕の食付に

一人のまにむらひ調味のそとれはとらしてとらして先く
 らせぬものにはいふもあつてまこといふれは日くのも
 るらうの味あらうとてとてこへ多れ長き傍り父を市
 長傍といひいへかせよありて福市町あるハ親戚の
 家にいへらこハ長き傍り婦して巷にそくりむら
 實容をあらうらふらうとて長き傍りむらふらふらこ
 とあまハそと人曉に及あらも寝たとてそのう座
 るをゆとりとられと地火をわけけ焚火をよゆうけと
 りハ父の心やとらうあつてとらとらとらとらにたをけと
 ことぬ父母死して後ハ奉念忌日こころよ菩提寺に住

持をあひこいあはらうこころと祭とゆうけその祭のそ
 めんとく奉くに田島とらけ耕してふらうつて
 こと祭と業とをらうわくいと福んこ後に供養
 ことゆて弟の事父たうらも長き傍りひとむらとて
 ことゆらこころをせは必妻子にらひとらうらことむ
 死らうゆら時に市飛長傍り兄才も他に出く出む
 久られらうゆらか久らうて後らやゆりぬといへり市
 長傍もその志にうけ随ひ父長き傍りにつら奉父
 乃市長傍りつらうにとらうらゆその他乃行ひもよ
 く父よ似くけりけり願主にやえなれハ海く感

てるく二股の新田とありてはよこも治くの支役と
ありすめるありそれり状を志すくくられ
くまなく徳人よ志ありせしハ寶曆二年七月乃
事なりこと

孝行者そよ

備系那新田の小揚町よとめり侍左衛門り家よそよ
といへちやも免あり舅吾後につくく孝ありあり
しにま吾月ハ去年世とよりて子一人をのこせり
そよ舅にむひまの不幸ハせんくこきくされとを
のまじやくひおいらせん程にふつくおかりあへ

おとめりりそれハ舅も一子よとれぬれとさぬての
かおとくもあく物々く進う孝んを樂とふらこりく
いさめゆくとそるけつといくと極老の舅と初稚の
子のこよく外よたよとく人もあつてつて固窮せし
ふそよ生まれゆくと神妙乃姉まひ多く世れつとるそ
よも怠らぬ舅れにらふ酒を好とそれとやうる難難
乃中あつらその重とかるまの細く時日こよふ後
色へ酒うりにくひくかまつて二作と作やとま指
にいれく持初るり出ることよハ福んころに帳とこ
ひ折ら酒のくこ物とくまらつ一挽をさく先てその

ちのと沙汰しあがり四五年前あまのハ男多儀健
 おしく家近き市場へあさるひも通ひしか今ハ
 養へん月おつもんのもさるされはそよその子
 と引つあさるひ物とさひ出市場の住業とそ
 さけらるかつく男れつさくさるさくさくさ
 こいふいさく老病の保業にあつらんおり物業
 履業鞋業と作りあつる業もあつしとそ
 つうよ業とさくさくさくさくさくさくさく
 にやうく男の作を出しそれの通ふあつりの人
 もその志にまゝあつしをまゝとさくさくさくさ

一 隣とくもさくさくに用ゐるさくさく男の酒の費と
 そあけけらその隣にこらふさくさく家作り此ありて
 そよう家にもこれより雨あつる軒乃まゝさくさ
 あくさくつさくさくさくさくさくさくさくさく
 しくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 けりて家のゆみとさくさくさくさくさくさく
 とたれもかく難難あつて人のさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 しくさくさく男の目にさくさくさくさくさくさく
 と推さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

不とにをのまじり難くよ程之十のもつらむら
 ともまじり知らんにつまに藤飯をのまかせその
 月ハおそりの見布あるいこ事といふものをくらひ
 しり舅姑よハ必はふらるおとのこそすあふら
 舅ハくく目なるやうくつあふくわけまを
 我子といとよむ事よも忘れくといふらうまふ
 事こらり子とこいひよこらうら二使そ乃
 糸の起若もまよと訂たよけまよと冊ハ風呂巻と
 して人乃あつありゆあまはる家にとまるいゆとね
 ハ焼火をいひく部あまあつらうゆも一難たうと

時ハをのまじり肌ともくあつて免るの難く二
 度之度舅姑の度前によこそこの寝よとこと何
 ふにわらう目とよめあまハ度るよとひあふハ用あり
 や各とらそいひるる年久と困窮よとく定りくつら
 食といふ物もまよとありあふまのよあつめく舅
 姑よおちいさせ親子ハむしらのくくひをまよ食
 といふくめ舅ハよとくく酒をぬとくかうら中
 よくくらの人よとむむらとまハんくくくもあらん
 とく高ひよいつらよとふまそらゆめくくあ
 中の人あふ目くよはまよとらふらり種りく

あつらひのうらこいせよのまもるに樂にたつらひとを
この事との事親子の縁をとりとけく買姑
よしとそのまつしとをたつらせしむのこ
うひの世の中のお徳りも悪事とをとり
只ふことのおつらこいせよとあつら
せし組あひのつらこいそのけひと
せしにこよひそのお徳りもあつら
事とあつらあつらこいせよとあ
うらこいせよとあつらこいせよとあ
もそのけひとあつらこいせよとあ

空曆六年六月報そこいせよとあつらこいせよとあ
せり

孝行者七郎右衛門

七郎右衛門は之島郡成澤村の百姓より十四石と申
あつらひの田畑をとり家もとりり
しむと母につらこいせよとあつら
はも母のつらこいせよとあつら
ふこれ中風乃病つらこいせよとあ
るしあつらこいせよとあつら
といふも力とつらこいせよとあ

あつふよふ志うするん地ゆく危角その帰を待ひ
 一程に農葉のいそりゆく時々も日ごと
 二四交母とつり三夜あゆり多り業と薬用乃
 事とをらひとつりふらして海二田畑ひりり
 されはとくつり夜義をもとらそりよせりけり
 はやりく領まいにことえり明和二年十二月錢をこ
 らせりその孝れを褒美せり時よ奉六十六

孝行者半七

孝行者ぬト

蒲系那天竺堂村の百姓半七ハ持高七石九斗あり

らも守えり妻とつりつり夫婦ともにあめ
 やるるものゆへに父老に助よ孝養をせり事こと
 に厚し去奉三月病になつたれ後ゆくんこれ
 せ養老のつらまへるく家をもと出人のたる
 物の中と辨まりりつりつり三人はこれといひ
 せりして後ひらくこと日に養よ幾夜といひ
 事とまつらと病乃つりゆへに食事も
 養老よ六七夜といひとその折婦ハ養老又
 小魚の類を煮焼してつらつらにくせりて反
 寢所に蚊帳を設けよとつらつらつら

に威しけりていそぎやうふほむ人なれは、此こそは
 とりの酒愛そのはまたもりてけり事と思へるも
 志うらやもカとあてせうくもとおをよこへみあ
 こさひよもとうせしに女のあさうら高ひよ粉
 骨とつくしをねとこつと男始よあめやうよ
 つくまのふ抱ふたゆこるうりしり長岡の役人
 うりも積をよこしその孝貞とてけあせう
 かくて買ふは二年と経くうせよしか福中れ今
 抱のこる事うりしり七十之義の始も年以中風
 の病とうまへ起居人のあさうらうこしに朝夕

乃食事とてしめふらはの事ゆくそのんは
 るひふれハやくく願主にこころをく積をよこ
 てそのけいを養ふせり是安永元年二月の
 かりし

孝行者とよ

古志郡田中村の百姓久吉、妻のこよハ男につ
 ぬらこことうふねんこ孫ありて男とて左衛門
 今八百歳乃老の身まふう四六奉とてこよく
 ハ其のいさうかさりなれハ隣村よあり今が
 菩提寺にゆくにふとたつこへ客の日ハをの

とらふあしつ胃の年暮くして夢さるる
つせつつと迎ふともしつりの人しくも
かきくその孝貞と稱しきりやうく顔
こえく安永五年二月に娘乃養老ととら
せけり

孝行者徳三徳

徳三徳ハ蒲原郡横戸村よとらうく
二名ありとらる百姓なり家あり妻れと母
孝貞とらる事こころ厚く元その宅地
野兼又ハ粟持の類ハとらひ初種
つりともたや

とらうくハ先母の口とらうて
とらその徳りと孝貞とらる母に
志のりめきり其の農事とけし
乃ららとらるハ家とらる田畠
母の親ををうりえうらあつ
おとて園庭とらるあつとら
物ら時とらうよその食事と調
母の福んとらふまぬとら
あつとらうよとらるの物
とらつとらるの徳とらる母の

眠もつらまのくはまつらかり夏中めこの業かこの焼
 火とあうけしに母がれつ作業の疲をいとい
 かしもともやくは麻とせんらく危角のひとい
 えくかと長くもこもこけしと母
 焼火よあつりやほあんを四方のくろく
 こあつりあつりふよく麻とせんか志とく
 母の麻とせんひと母の驚くは母とて去年の秋
 ありくめつりか歩るまつりしに母とを食躍
 せしとく村らの童の泣うこひををりしに
 らるるあつり物とるゆもまふりしと母のこい

うらと支ぬはそのまのどのう子らもどなつらつどの
 せもらもに躍りしつりてその樂とととらけ
 させゆらそれありしては寺ありふとも二十町
 よああら道ありしはつらにうとあひて指させ
 いあつらつ目し麻よそひつて二使ふとよ
 らをつらし子と人ありしかつらりなまよふ
 その活報ともく母の醫れ費ととらけつこの
 よく領主にうこえけしは残をあつてその孝
 りを復つたせり安永五年二月の事なりと

孝行者村の助

孝行者屋の

孝行者ひも

三島郡大塚村よとある村に助八高四十九名も
 ちの太左衛門と妻と屋のといひの娘とひもといひ
 ともに父孫七につくく奉に後孝養をつくせり
 父いこく七才にるれちり六奉前より老の病に
 るやと月神心のおくちりちりちりいひちりちり
 妻と目にするて女抱とくちりちりちりいひ日く
 に村に助八領主の養えよ出いあはよ廻状あら
 八村觸平と送りこよちりあまの父のことになと

骨するまゝふられ勤めのお婦も日よひを夜と
 度家よかへりて父をとりえしに我ら家よあら
 母と父のふ安室にいえちりいひお六奉このこと
 公事此れお地外もせちりいひ我らけけけ
 ちと荒くちり田島の高れあはちめと検見のち
 ちの町殿のあはちめと或は飯塚の垣乃修造
 の事しにあちりいひ日教をまて奉とちり
 しかそのおちりいひ公事ありちりいひ
 ちにそ養感あちりいひちりいひと父よちり地
 こえその飯塚の役所に出いちりも父のちりちり

くよと教ひ下とめく組うらのまうらひの徳は
 の道理正しくしてまうくに村人乃欽をもちて
 母いさし初こころとせとより父をうらへて四人
 をあふしつてくつか村に助ハ奉若くておのむ
 久し女是も海に十五六歳の若ものありしか
 男走に貞順にして家乃うらやうらと睡し
 まして男の病出より五六年のこのころそ
 りととるまじは病とくも枕をやらくせし事
 ありわきて病乃まうしつて病のまを海へし
 して二百日あわりのと鐘し福に病いつる半と

ゆもとえけるか穢の感とる友ありらん今に念抱忘
 らるのささ妻の姉妹と人いつても人よ嫁せしに
 月よハ二交之度父の病とらひ屋の勞をたをけ
 しか皆世のいとあまにいとあましくこころふ女ハ妻の家
 に男をやとんらるものありとく孫七りて孫よ
 徳せさうりしかいつく滞ぬおとに來るゆりあり
 孫七も勅役のうらハこころふ貞実のし村のうらの
 まうらひあめやうよいつく著りて禁せしも乃
 ありこれハあらとらと細細の古さ念のあわらと
 主婦いうら久しと老の病ままハこれ若あへて

泣叫ぬ夢喧し〜くあ〜れありさ次郎云清八は
 ち〜に思ひさ〜も〜たさゆ。おとやらひ〜の
 ち〜に保内よも〜こ〜れぬ。おとやらひ〜の
 ち〜に松次水〜も〜も我直のあやうられは是も
 ち〜に雇をう〜らもの〜こ〜に上田妻有さよ
 里来り〜松次某ハ次郎云清八父け〜こ孫ん
 ち〜にひ〜さ〜者〜再〜のたの〜にせん〜
 ち〜にけ〜ひ〜長〜十間〜のち〜の松三艘あり
 ち〜に一艘よハ新と様を〜と次郎云清八あり
 ち〜に價そ〜と〜と出〜と〜とやうふ流〜は〜

させ舟子らもに勢とそ〜ん〜と〜飯桶或ハ酒樽
 二つとつとせあ〜へ〜れハ中徳大工町新屋をふ
 田町兼生は村中〜業廻〜二百人ありとたを
 け来りぬ〜と〜その人〜の志〜り〜種會と調
 へを〜り。松次よハお一艘よ種六考文つとあ〜こ
 ち〜にやう〜と〜その切と賞とら〜と〜領主の紋つと
 ち〜にふととと〜と〜せ〜か〜其の澄水よもあ〜の
 人を〜と〜ひ〜のハ又金をあ〜と〜種美せり
 是寛政元年奉国二月の事なり〜父も海〜次郎
 云清といひ〜の地享の〜ら七助とい〜ら下船を

抱へしにたゞれと申あやうるものありて前の治部
 去清死して後今の治部去清の事を知りて
 家のうち人多くりてにありていもやあ
 く成りてと七助ハ奉りて給金ともうけ
 たりて主人の書言に心をそく目くに高ひ
 のこめとて十里あまりの路次をよせまらり
 その様をもくまの困窮を凌ぎせしに奉月にも
 さいころいもゆこりありて水旱此災の治部
 去清とよめく人の難難とよくせ四十奉この
 こと忠節とよくせりてい願もその志は褒

美しと申和四年の同九月をよめて又報を
 せりて天明五年六月乃事ありてその

孝行者惣去清

古志那谷内町子惣去清といふ商人ありて
 二十奉とてその兄の孫志忠といふも
 といふ事いふとあけける母に二人と
 かの女家乃あひてい語次もい
 再い母の安否といふ事い
 再い母の安否といふ事い

八兄の家へ還ぬ〜て食事をするの二便をたは
 けら〜く人をはり〜めは〜に食事をするま
 されは在の世もその〜うらよ膳をひく〜れは
 味ひ〜れは和らゆわ〜ひり〜つま〜母の重む
 ものあ〜いよ〜やよ〜調〜よ〜めぬ者にも葉粉
 を好〜れは〜〜〜〜〜二十一年〜
 ぬ〜つ〜ら〜葉粉〜或は〜或は〜人の
 身を〜葉粉の〜は〜葉粉〜あり〜物産を〜
 異〜は〜涼〜〜〜に産を〜り〜ゆ〜こと〜
 は〜事〜あり〜〜〜〜ゆ〜ら〜ら〜こと〜ゆ〜く〜ゆ〜

こと〜えゆ〜は〜あ〜汚〜つ〜ら〜も〜あ〜ら〜と〜
 高〜その安否〜ら〜い〜さ〜あ〜く〜食料〜も〜く〜
 せと母の〜あ〜り〜〜〜〜は〜あ〜ら〜五七
 孫の菓子〜ら〜の〜〜〜と〜あ〜けら母乃
 今年九十九〜ら〜歩〜に〜か〜熱〜言〜れ〜よ
 志〜〜〜志〜〜〜人の〜業も耳〜に〜ら〜ら〜
 ら〜その後の兄と志〜ふ〜ら〜あ〜〜〜目〜に
 往〜〜た〜あ〜〜兄の体お〜く〜あ〜え〜ら〜と
 あれは志〜〜〜そのゆら〜あ〜れは〜あ〜〜夕
 へ在期〜〜尋福〜日もあ〜い〜あ〜こと〜あ〜り

一 伯父小指七としる獨月のもれをけり兼
 老て落ゆれしと二十年前に己の家に住る處
 とけり四十卒と經て死せしも父あひら
 くつらしとて妻の父と若左衛門といふと死と
 ひて之しとて家のうら四人語次よさめふり
 ありしととるかどあてせしといとるあせし
 若左衛門の世成さうりたる始なりとて母の
 ことくに志ししととるけり領主にいふこえ
 今れは天明四年四月殯をあてしとて廢りせり
 時よ慈まき卒年六十とある

孝行者孫之玄場

蒲原郡佐波山村久助といはる百姓ありその妻
 子と孫と玄場といふ妻父につけて孝行なりと
 もとらりり耕しとらかへし田畠もろく産作と
 りし事とてしと勇病にいとるを食たらとらる
 知といその地主に麦稗のしとひせりうけと
 今よを送りしとかと久助酒を好とけしは酒あ
 るは田植酒ふくとつとは時ハ之種もくはみね
 手つりしとて妻父のよとめあしとらり
 得ることあはしそのしとらとらひとらり巴と

かつく飲さうりその物ごとには水をとつて世國様
 裏の上座の表父の席とささめ人をししてその水
 小ざらしめさうり多れは初稚のまのとりともそ
 の席にいはるあつくまの表父乃料小そさうふ
 る物ハ茶履木履にむらあとも用う海くともそ
 る物けの柱つけの時よのそと飯富にこれこの富に
 いられおと表父の教少事ハ孫云々備々もさうけつて地
 味もむらに異ふれはさうにれうこにいられあま
 ハ如行おとさうさうに久助ハ久しく田畠と試さ
 いら地味のあまもさうさうりいうよもさうにいら

らへしとりかに孫と表父とつてさうとささいに
 いたさめとく親子の中らいらさうといらお正しありの
 ささ常に家のうち暗くく明くれあつたひ昔今
 の孝悌あまの物徳あつて農業の始夫おとにささい
 しくあつてあひに家のそともさうりうり
 へあつてあひやあつと思はるさうりあつて人の言
 おとに及はさうりささ久助も父兄あまの世に立
 後ハ孝悌あつて子孝への教正しくさうさうさ
 術とん好くあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 くあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

奉のうらめはさしてはゆ多く持養あまの
 ひもあらんさくはしむは我がよとて
 るくし響古もまの量にまをせんおとりの
 しけきうのんくもその被も感せしや
 濁酒か所持りて久助親子をうりてせ
 孫之まぬか妻はそのくは憎會のせえ
 かりしかま子教とてうけて後日弟の
 ありく教とて久助のうりてうけは
 しこの事ちとてうけてうけは洗足乃湯と
 してあらは母爐裏に焼かすやうけて
 孫んうり

送迎へて子お二人あまのうらめは
 世に男女ともく長知とてうけまを
 くにま奉のありつひあまを迎へて
 つらよおめさうりてはまや大海日
 せまうて孫とま傷ハ小流の言と
 踏あうりて久助ハ奉考の業と
 て魚切庵丁と研うらひ孫とま傷
 そのよとてやうく涙おとせし
 程に久助あまの目出度とて
 のくれありよまらぬらまひしつ
 らそと召るまにハ合奉ハ
 うりて事をとおこりて父乃研
 ありて魚とてまはまの
 世業とてま

といふ事のついでに母も妻もともに袂
 たりて母終りて久助のあはれ風情よく兼
 のちもあはれいとて大根平屋あとのくしを
 送り迎ふて孫に云渡のもろふゆきて兼
 書を祝せしれはつらき書控等に詣んとりひあ
 めしにそ家こそりて大晦日乃節をつつとる
 かつく書よりとれぬは孫に云渡の久助にい
 たりて寺詣せしに久助のこころれは往來と稱さ

らい事のついでに母も妻もともに袂
 たりて母終りて久助のあはれ風情よく兼
 のちもあはれいとて大根平屋あとのくしを
 送り迎ふて孫に云渡のもろふゆきて兼
 書を祝せしれはつらき書控等に詣んとりひあ
 めしにそ家こそりて大晦日乃節をつつとる
 かつく書よりとれぬは孫に云渡の久助にい
 たりて寺詣せしに久助のこころれは往來と稱さ

孝行者三十一

と為那笹花村の百姓は左馬のこころは男姑丈
 に貞順よしてまこと奇特の初ひ多りてこころ
 め男角を清とてその新左衛門といふ書子とせ
 しに子五人ありて支ぬともいふ書子のこころ

半左衛門と名を置子ら〜このむじぶんで妻と〜この
 新右衛門の妻の妹より〜み人乃孤の〜まのれつ甥姪あり
 といひ〜半左衛門夫婦の継室の〜〜〜あ〜あ〜あ
 子とも〜あ〜〜と娘三人の成人の後人の嫁せし
 めの〜この人の男子あり〜と兄は十二を〜の十一未
 九津あり〜この二人の才人の養子とあり〜兄は角三郎
 と改め〜祖父の名を〜ついで四年〜この杖を〜と
 いへら村役をも務め〜り是〜の〜と〜と〜と
 の〜〜の友あり〜妻のハ男夫婦の孝女婦〜と〜と
 小角三郎と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

善とも〜その側を〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 の〜二役のお〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 流か〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 引未福ん〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 是ハ衣抱の親切あると〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 心〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 や〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 い二幸福ハ初歩あり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 用を〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

産く婦これその重とつけその外の食も好めら
 ものハこの人をもこの時の求めを待しなくは始も
 こころのありさうひしとそこのこれ家にありしあり
 二十八年母の家事とのよのさうらひ願をま
 んし國志を志せば先祖を教ひ親族の交り睦
 しし子孫の教へやうく徳進を村くまうくも
 女のうごこにありぬまの公彼もく徳より財ハ腰
 のまの衣肢とく先とくく徳身のみとあま
 つらうのへ業履木履にむらもく人の手と海
 たと出らうもむらうも門よとくり迎て教ひと

つくきりかつくまを患う娘と南ま徳り妻にむら
 へか初産にむらうく世と早うせしむらこそあ
 妹とあらうせぬうの産子ハ乳母とくやかか
 びされハ後の娘乃うむらうくこのハ孫六人あり
 くといつても徳切よあましとく徳あひらとて
 教訓あつて出産乃財ハ費用ゆくれ乃事に入乃
 子とあらは出入のあらうも衣服とくめ徳の徳を
 姑の徳ありとくこの徳う徳徳をあしとくへ
 ら徳の事とのいさあひしとく徳とて徳と
 ひとあましと徳よ徳もあましと徳よ徳と徳と

厚くまじりやゆひしとそびゆる顔まに
こえけし天明七年十二月病をあらへく瘡
せり時おらこの年六十七とそまへく

孝行者源右衛門

源右衛門の備前郡曾根村乃組改めく持守十八
石一斗ありしとそまへく父を源左衛門といひてこ
らへんに二はをあらせりしとそまへく家産ゆきま
して酒造を業をいしとそまへく市中に住しかこの後
ありしとそまへくその業をやめく町を去
りて地をあらへしとそまへくちて家作りしとそまへく農業

とのとめ事り十四年このとそまへく源右衛門の稼穡と
ありしとそまへくこの後水乃とそまへく志とそまへく
してまへく貧しとそまへく若しとそまへく源右衛門
八年この後乃孝人志とそまへく父の病とそまへく
とそまへく出と事もあらへくその理と名理と乃
とそまへく外く應對しとそまへくやうのて父の心
乃優よせととりし事なり父の生つと事好先
るものふて誹謗といふことを志ぬとそまへく人の
送り迎へ事志けく飲食のあらけも志らなくとそ
まへく海とそまへく舟の乗本竹名とあらめて樂とそまへくか

所あくもゆるることあれば必係在樂つとよひて見せし
 にくれは面白と花をれは珠とてまおとりのくとの
 世もともよもくあそびとそ樂とてあだけと
 作業いそがしと時も父の候格ひよゆんあいら
 ひゆら車もつゝか源志忠はらりあんとけつハ天
 氣もく流よとあつたいとそと出くえあんとく妻
 よいより籠やうのものをもあうけとせ身の源志
 にくらもに志とくあつたいとそとえり父ハ
 魚音乃肉と考に替とらつたものと人並く飲く
 ふことよちらあつたはらよあつたは家こちりて

貴味せよあつたひゆら車もあつた車らうりにこ
 そととびくはあつたつとあつたは源志忠
 いかくくさいくあつた車あつたのくれあつたにおに輝
 邊に及んやらくとの進先とら食くけつたつ
 世も是に志とくあつたつとそとあつた父乃うの町登
 とつた方ものあつたよあつたの進の目く乃
 費用とつらうけつた車とつたは代乃代乃多
 くつらつた車もあつた源志忠つたひとつたよつたの
 ひくつた車もあつた父ハ兼乃書につらつた今
 兼ハ代乃代のつらつたつた多つたは源志忠つたあつた

くんかといふと源右衛門の左あらぬ神のまゝ父の費用
をさうささるゝや今幸ハ多く少く地の代をさけ
らりし年とさうささるゝ父の心を安んずるにむけ奉
願にすえられ寛政二年乃二月癸亥乃積金を
そとらせしむ

孝行者九玄傳

蒲系郡中枝寺村よとめら九玄傳ハ言りつゝりよ
と名を升もとら百姓あり十一歳より父の後は
こころ七十この母にいつて奉法孝行をせせり
母の死よ少く時と進も外らり傳り奉てその助け

らぬと尋らるゝ妻はうこの誰かおよぶとあか若
れハあられくも洗はて村乃中ハ文のもつては
一二里の道とありさても必母と尋探ゆと我れ
しやこの事おとせり日く乃稼よいつらよも
必母のをへるこころしやあつてこのこころ
の難よてはくれ乃事したりしをこころに家事
しきれいつても得あらハ稼おとさうひしこの
母ハ魚島の肉とこのこころに形おしつて先
けりあら母の風氣よく食事のこころをさし
と九玄傳ハ素くわつらひつてそのこころを合せ

くの母のまことくろひわぬまの目くろくろ
 うに後にならるる老の病をさくくあまの
 ことめ食とえられ若くそのくさあちあち
 事くろくひくすくにまき免しか老角くろく
 てあまのくあむくことめくく母の食くひく
 たりあまの貴に人の養子とあまのものを
 年く治る作してやろくに免窮せし後子母乃
 かくひひくことえくあまのくもまろくく
 ころる難の身にありくろくくくくくく
 にあひまをさくくくくくくく中あまのく

るたまげもまのくくくくくくくくく
 器財乃事やまげくくくくくくくくく
 こと事ありくくくくくくくくくくく
 いらくあけくくくくくくくくくくく
 たり物もあまのくくくくくくくくく
 とつことまのくくくくくくくくくく
 たくく廣英せり是寛政二年七月の事あり

孝行者之次郎

村上の城下店内町よとめろくく次郎は兄孫助くも
 ふものく事あまのくくくくくくくくく

と養ひりぬる不具の身ありもそのうちこそは
 よととらうりしかい母乃養ひその分にも越しり
 こやとらうりか魚肉ありはめつらうりこ物を
 あこめきいつこゆりて母にこそ先意をさくその
 紀外ともたさけらうり親愛のまこと子より
 親色もあらうりまらりぬくこ次郎八和田を悪と
 りあまけ養子にありしか養母につらうり実母
 にともあらうり養母八田五年前に世を去しかや免
 らうちのふ抱死し後の愁傷のちんくこ物けは
 孫く父母を敬ひ兄弟を親むへこそくま語る

まはらうりしかう語らうりこちともく人のも教へ示
 しきり安永六年二月願まらうり兄弟に兼を阿
 こへこそれ孝行を褒めせり

孝行者治之

治之ハ蒲原郡松橋村乃百姓佐々木見ありいとけ
 るとらうり孝順ありて二親のんにこそらうり母老衰
 へて後ハくる目しる乃不具なる身につらうり飲食を
 せしめらうりハ痛ふらうりこそらうり母乃ありとを
 まらうり母の病にうりこはとハめられ側を
 離せとそれ女抱乃祈んらうりなるんをうり

目ある人も及んざり。こ計醫を業とせり。こりて
 他村より療用ありて時とらりて。ほと。一省と
 し。平。こり。人。も。あり。一。か。母。乃。事。人。も。と。あり。と
 けり。一。く。和。と。こ。め。も。も。ゆり。一。と。か。乃。病。家。より
 報。ふ。と。候。る。こ。あ。ま。い。才。依。ま。傍。と。して。た。こ。め。を
 う。り。め。母。乃。衣。食。乃。費。と。い。ふ。一。ぬ。實。延。元。年。十。二。月
 頃。ま。り。り。兼。と。あ。こ。り。一。く。その。孝。れ。と。療。美。せ。り

孝行者と免

蒲原郡岩淵村の百姓市三橋り妻のよめは生れつ
 こ。貞。實。あり。と。ぬ。實。一。一。この。ま。り。り。夫。ハ。久。一

く。病。に。し。一。姑。ハ。老。衰。へ。子。と。あ。め。こ。あり。一。と。こ。免
 ハ。を。う。と。あ。ら。ハ。日。傭。に。や。と。り。ま。て。か。の。賃。錢。を。う。け
 て。ゆ。き。と。と。と。こ。り。一。の。ら。ハ。物。夕。乃。あ。り。け。も。後
 く。あ。り。一。程。に。い。ら。ぬ。あ。ま。い。人。目。を。恐。ひ。つ。袖。を
 に。出。あ。ら。ハ。その。や。と。い。ま。つ。一。ぬ。あ。く。あ。り。よ。る。程。の。食
 料。を。と。れ。ま。い。く。と。く。持。ゆ。り。て。その。や。一。あ。ひ。の。こ
 と。と。け。と。そ。あ。一。け。る。あ。く。て。姑。の。癰。と。い。つ。ら。ま。の。に。ま
 や。り。一。か。あ。け。れ。ぬ。衣。袍。に。ん。を。つ。一。その。ら。り。一
 こ。よ。か。と。ら。り。あ。り。一。か。と。り。ひ。て。ん。を。ま。せ。つ。一。う。と
 奉。養。の。り。ら。る。た。ま。と。に。て。こ。つ。一。起。外。も。あ。い。され

ハ兎角とある余所よりのおくりを待たひしに後り
 とめもあつたにゆらりよふに今おくり来りしを
 門をよりあひさしえく姑の心をやとらうし
 めりもらりしをくもるけしに膿血よけられ
 くらむをのまじ料と名くさせさすけしに
 ねはねしよ志をく焼火とあうけく冬を凌ぐ
 せきれは姑も不復乃後述さほりの人くしにその
 志をゆくとらりしをえとらりしを寛延二年
 の四月領より兼とあつてそれゆひを養
 せり

貞義者それ

新發田の城に立賣町よとある高人孫七が妻とその
 といへり支故ありて獄登につまらうし事二年に
 及ひしか始終容儀をうとほりは乃と孫七
 の家に立し時のうとて登れとるく門戸を出る人
 と對面せしと咽くれまのこめは陰膳といふも乃
 事とそらうし又おのうとらよ流木のあきしに両
 のいとひやくねとらよ垢離をとりま乃獄登と出ん
 たらをいのりしか天明四年六月支の事とけしに
 その貞義と養ひしと領より兼とあつて

孝行者治郎右衛門

治郎右衛門は蒲原郡長谷村の行實後ありその教
 誠村の中にあつた移りして年丁後多倫おこつと
 訟よりあつていそぎをとりくるものなりりし
 後はその村乃風俗迥に村にまゝれきり父母に
 ついで孝りたりしか初てふとく新くその寝時
 を寝ひるを志しありとまゝにそよみ幾夜とあ
 さまらり毎の目さめぬる時そのまゝとらうと
 煖色に産せりめと水をついで髪をぬす事目と
 して怠る事あつた寝ぬらうとその寝ぬを

試して後父母を二夜させ冬火を埋れぬ暖より甚
 ハ枕をぬきと涼しめ眠らざる後ハ四時
 上の事あつたりとてそよみとあつては飲食
 を種より種より二便の起す時あつたは志とらう
 もあつたりとあつれとも他子あつたはけ事有
 てあつたにあらうとあつたにあらうとあつたに
 ありこの事とあつて若くはあらはの事父
 母にあらうとあつたにあらうとあつたに父
 友らあらうとあつたにあらうとあつたに
 事りしてとあつたに父の樂とあつたにけんと

その門意に徂徠しぬるを待てらるひしと
そたまさかのも人と會はるれは若うしるよめを
くそりて産をやらせりしに産に人く怪し
てその心を伺ふれは父の在せる我君のもしやう
しるよめ當らんかと思ふゆゑにうきまらたると
うきまらたるといふ産する感しあがりけりし領主に
すえげしに函保と奉とりしよめをこころとあそ
へてその孝けを賞せしに我孝けせしをええり
父母に福んころるる人の子なるをいふはまじかり
されは産するをうきまらたるといふはまじかりし産

出んとせしは我君よりの賜物をまかりそくるは人
として怨む事ある事ありんぞあし文ありたると
人くのいふあるこれの治郎を悪しやむ事とえはあさ
め並ぬれ産するの業を津川町をうき産するに
まじりしとこいふこととす傳へるよめとこいふよめと
業務に持たせしとて懐くふ業をうきつる取物しそ
のうきよめうきつるけりし人くあやしむらひこれ
は津川町をうきつる長谷村あらし志をうきつる船路
なりもしその船乃くつりて志乃めしとを
ひあるしとせんもころりぬしとされは父母と

てかの賜物を戴しむる事ありて戒
陸海を指くりてとく父母もあせし
ふいつとあつてけつとあつて入る事
とも海も領まにうへ出けむ月正の二人枝
指の葉をあこへその生涯をへくめり是
兼應元年乃事ありて

孝行者市麻玄清

市麻玄清は蒲原郡吉津村の百姓長右衛門あり
初に此より乃事父母れんよたりふ
一常にその傍にありて慎之海く食ふることよ

ハ膳をそる人寝る時ハ枕席を具しつるよ海こふ
こゆら海ひをせし事多くのち継母につく
も實母に異ある事たりしとて胡こふと
團爐裏に焚火をたうてそのわたりに父の席を
あうけつてその寝所を窺ふこと志らくあら
に父のち成起さるといふ地やあつてあんと
志つふ目えをつれやとくその声よ應しと
父の起ぬるをよとらしてか乃席につく先發
とくけりり手水をつりせり父の隣りに出
るこふ必そのあよ送りけ海路よとまこ迎り

けしにふちのうらみく物語せむおしハその奥
 をさゆきせんもなをるらほくくぬのそらもに
 福多ひしけかへるはひよひ今ひひよありし
 かこひひて兼履をさうしめ杖をさうけ道さう駐
 しく後あひつづけひくうぬあら幸市郎玄備形
 後田領へけし海色れをさゆきら後種くの
 物を横のせころ船のくうくんとせしをえらふ
 悪ひよそのまき海に飛入くくひしに恙なく
 着岸せり無船り此領主の船ありその後人も
 乗船りれは福よつけくる物をさうりその骨と福を

らひしけれ水色に生さく船をのら幸にたの
 きくうりされいころ村子逢ぬこと幸あれいそ
 ころらとらふ及人しとひしとらふいまをくれえ
 後人もやじとをゆきくかきと名と事と聞く別也
 ぬその後れ領主より人しを物をさうりしけ私に
 交へるやうなうくく領主にもうしこいこえく
 うけ納しとそ天和三年領主もそのけひを賞し
 て果とこくくとあしふ

孝行者助太郎

助太郎ハ蒲原郡五十沢村よとていよと石田中一

あり持り百姓たりり生まれつゝさ実直にしてそのけ
 ひ為るるは其賈物を納らしむる村にいとくま
 てとちくそのお乃公役おいころちくまてい
 里年よりさ其父おをくれて母を孝養する事
 ころふあつりきれい妻もあれいひよるるは姑に
 ついでおめやちりり母のこころ願ひし時お抱り
 身とお福て夜食のまうけい父おもつては二役の
 ちりおさあちくも人のまをうけおちり母の生魚
 を好くしる音傳へるのちちりりおもつては
 ちりりお福川水にひくちりりおちりりお魚をちりり

ちりりめに幸にその日より食さるるをちりりお福
 たりりちりりちりりおちりり母の終るる程はちり
 もちりり妻おもつて箸をちりりちりりおちりり
 村より道の程五里おありちりりちりりおちりり
 ちりりちりりおちりりおちりりちりりちりり
 して目くちりりおちりりちりりちりりちりり
 ひちりりちりりちりりおちりりちりりちりり
 願まにちりりちりりおちりりちりりちりり
 乃ちりりちりり

忠義者 赤太郎

蒲系初白坂村より川谷といへり結ありそのうち
 にとらめり百姓店右忠つう藩代の中納を孫左郎といへ
 りりりめ店右忠つう九石ありりの田畠ともちりり
 多くありりりあくくき窮ふりりりりりりりりりり
 と十二年前田畑と八貨にをりりりりりりりりりりりり
 賣夫婦ともに入りの中納とありて家も又絶りりり
 に極老の父母と初稚の娘ハ飢渴にも及りりりりりり
 一と孫左郎ハ主人乃をりりりりりりりりりりりりりり
 ともとなりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

くありに年月その作料と積をりりりりりりりりりりりり
 けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 とあありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 作りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 て又九石ほどの田畠と耕りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ハ農業に力をりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ちりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 まりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 妻とじりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

却ららるる衣をも質に在るのりてあていし
 る一こ悔して十助の手は痛多うして切あも
 りうけりし一とせりしとせりしと二使の起居を
 けましくし蕭園もたのけしに其妻を人よこひうけて
 母くに志さう入させをさうけしとけし初権の
 ものを負ひあう肌をもく父の子はとあてあ
 せよもるれ、我衣をも脱くおろひ着せその身
 よ、愛流をひらけしとけしとけしとあもさうら
 りく夜とさう起せし二使とさひあてい、極さうり
 るとせし、病のどりり、後、益、病とさう、醫、業

ともめ力のうさう心をそして女抱志うりはて
 小吏四郎助を公とせしとけしとけし二親のや
 しあひよ家持よ妻へ衣服おとの質にけしとけし
 りうりして親よ孝りあるはうへもさう事あう
 こころあうしとけし中あるにけさうぬ食物をもさ
 ひるさうとけしとけしあるな、成、管、り、を、さ、このつかく
 らいあうしとけしとけしつひをその着病にさうけし
 せりして、妻をもとさうしとけしとけしとあもさう
 とせあしとけしとけし涙を流してけしとけしとけし
 とあうしとけしとけしとけしとけしとけしとけしとけし

二親の事たることお言ふれどもそれよりして
 一親とまらよめられて己のそ兼食とらふひ母の親
 難とらとれて親の夜食とらふのへに後まも
 その謙の感し妻とらとけく孝養しと十助
 うせのへ後母もまらと病にうけつに父と
 養ひしにとらとらほるをも孝ん忘らとらと
 一八明和二年の七月領主にすえと錢をこらと
 とあへその孝んを褒美せり

孝行者甚々清

甚々清ハ月取郡黒龍村の百姓なりと云り

お中あまのり持より父ハ世代早うと母につとく
 孝じたりとさ家もとらり勇しくけしハをさく夕
 への赤きとへもうとらと母の手足の冷し種ハ已う肌
 ともくあへとらめ夏の熱ハ蚊帳もるけしハ熱も
 とらと母の所におありて敷とあひしと母のこ
 とふ急と好らとハ市中におるしとふハ必もとあ地
 里と調しとらと先田畠あるハ山林の往來も和
 んと後よその出るとかへるとを若くは母の機織
 あへとありハ何れとつひとらと又款とつひ
 躍出るとして笑ハせり母ハ刺髪して居ると

かつりて之を齋那時の招に應じ又はらる事あり
 とも他に出る事とのあれは甚き傷は仕つけし事ば
 も捨ててとくその往來とも多し異さす時ハ未
 の樂どもて日と夜ひかへつてあひり事もあ
 りたり遊さるる人々のその孝じを慶揚
 せし事もありしか家業もくくく人のまゝの
 養ひこけしは只ま業の之人ありともゆめやうに
 ありて心とをきくぬれれとを孝じといひ
 かりてのこころをのりひのりていふことを
 いたしつらうとて年々に後るりともひあへて買物を納め

子に後に出るに百とて支役にせしその給養をう
 けぬ乃未進を償ひんとせしと母をとりぬにあり
 ぬハ養ひのさかへらるるもあけりていふこと
 ありてと多れはやうく領主にさしえ出りに五儀二
 年の末をさす毎指しその孝じをさしけりせし
 ころいふく孝養ありけり又後そこそくを
 あへてこれに賞しとて安永四年三月の事
 としていふことあり

孝行者忠四郎

蒲原郡柳場新田に年久しくとある百姓忠四郎

ハ指言りつらよ一石七斗ありとそすえく細ら
 りり父母につくく乗和るり一か母ハ天明四年と
 りよふ病てうせぬ父ハとくハ法姉しくこと
 八十の齡をくらもち妻あり子ありはえて十人あ
 ひとと具せくハまねら寛政のころめ乃水の災この
 ころいづつれ田畠も奉てふありといひあくは
 困窮にといひをのれ妻子ハ朝夕の食事も奉
 たりくるく難穰多とふことにていづく難難に
 せりく、直物とてくめ法役得るとと納むら奉日
 とりく、敷をそとて傳を奉るり村の役人と

らやあひ親族よむとあくハ性もあつて實義よ
 そええける忠四郎ゆきて妻子親戚あるハ隣里乃
 人くよもつていふことハ父のころいもや八十に
 題ハこのころ歳とくの年月とらるるへんたらく
 その心とやとんすら奉てそ孫うけけしとこれ
 ハ我とていふことハいふこととあつていふこと
 とくく日くのかうけもふこととたくとくは
 かついひとて父の好むるとと奉りく新穀乃
 とのら時よハとらつて濁酒をつりて朝夕の
 免れぬハその友らとともなつてくことりく

のりらとていへりおのりり領主いさこころ
は六徳和七年三月跡をあらとてく獲りてせり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

佐渡國

奇特者

佐渡奉修支配所
難太郎淡山村

忠義者

同支配所
地役人小宮山佐平太右仕

奇特者

同支配所
加茂助矢柄村

孝行者

同支配所
難太郎相川材木町

孝行者

同支配所
難太郎相川南津町

孝行者

同支配所
難太郎相川四町月淡町

孝行者

同支配所
難太郎相川羽田町

百姓

惣右衛門

天明五年
伊勢

下男

采助

宝曆七年
薩摩

百姓

四郎左衛門

安永七年
薩摩

普所階同谷但馬守

安太

天明二年
薩摩

町人

安玄清

天明三年
薩摩

町人

利右衛門

天明三年
薩摩

盲人按摩師

勇碩

寛政元年
薩摩

孝行者

同支配所 雜太船柳本郷

每四百姓才助将

紋

五十歳 寛政元年 寝巻

孝行者

同支配所

紋

早

同時 寝巻

孝行者

同支配所 那波野下黒山村

百姓

早

寛政元年 寝巻

孝行者

同支配所 雜太船相川之町目新漢町

盲人尼

妙

二十九歳 寛政二年 寝巻

孝行者

同支配所 雜太船相川之町目新漢町

小判所仕奉所

次

四十六歳 寛政二年 寝巻

孝行者

同支配所

次之御妻

也

同時 寝巻

忠義者

同支配所 地役人中山所右馬右仕

下女

今

二十四歳 寛政三年 寝巻

忠義者

同支配所 地役人九田所右馬右仕

下男

今

早 寛政三年 寝巻

忠義者

同支配所 地役人系右馬右仕

下男

甚

八十歳 寛政三年 寝巻

忠義者

同支配所 地役人丈村助右馬右仕

下女

乙

七十歳 寛政三年 寝巻

孝義錄卷之二十九

五十六

孝義錄卷之二十九

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 孝, 義, 錄, 卷, 之, 二, 十, 九.

